

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

新知故温

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2026.7 Vol.48

令和8年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中央区中央二丁目1番1号
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<https://www.suac.ac.jp/library/>

Contents

■表紙

愚子見記

(法隆寺蔵本完全復刻版)

①

■図書館散歩

都市の記憶と

「知的な居場所」、 そしてAI時代の図書館

静岡文化芸術大学 学長
佐々木 雅幸

②

フィールドから帰って、

本を読む

国際交流センター長
国際文化学科 准教授
武田 淳

③

■知っていますか?こんなサービス

学生購入希望(リクエスト)

④

■図書館ニュース

「木村文庫」のご紹介

⑤



愚子見記 (法隆寺蔵本完全復刻版) 平政隆 [編著]

井上書院, 1988

[521.5/G 96]

今回は、当館で所蔵する日本の古典建築書・技術書をご紹介します。『愚子見記』は江戸時代前期の大工、平政隆(たいら まさたか)が天和3年(1683年)に著しました。書名の「愚子」とは平政隆自身のことで、本書は彼が見聞した建築関係の事柄を記したものです。

数ある日本の古典建築書の中でも、本書は特に貴重な史料で、『雲上記』『三代巻』『巧匠根源一巻書』など中世からの建築思想を伝える史料も収録し、全部で1000頁を超える大冊です。

全9冊で構成される『愚子見記』は、内容の多様性においても傑出しています。陰陽学による環境・都城論(第1冊)、内裏をはじめとする宮廷建築論(第2冊)、伊勢神宮をはじめとする神社建築論(第3冊)、法隆寺をはじめとする仏堂建築論(第3冊)、畿内・近江6カ国名所建築論(第4冊)、武家屋敷を主とする住宅建築論(第5冊)、武具を主とする道具論(第6冊)、建築設計に必要な和算計数論・建築積算理論(第8冊)、日本建築の様式論(第8冊)など、扱われる分野は多方面にわたり、本書の著者は非常に博学多才な人物であったことが分かります。

著者の平政隆(本名:今奥政隆)は、法隆寺所属の工匠でした。承応3年(1654年)に内裏造営に参加した功で出羽少掾(でわのしょうじょう)となり「今奥出羽」とも名乗っています。その後、寛文13年(1673年)の火災後に行われた、京都御所(内裏)の再建・造営事業である「延宝度」の内裏造営にも参加し、幕府大工の中井家の配下の中心的存在として活躍しました。『愚子見記』には江戸城西丸御殿(1659年)などの記載があり、彼は幕府関係の多くの工事に関わっていたと考えられています。

参考文献:

内藤昌『愚子見記の研究』(井上書院, 1988)
岩松準「近世初期建築書『愚子見記』の中の積算資料」、『建築コスト研究』18巻3号(pp.30-33)
『愚子見記』, 国史大辞典編集委員会『国史大辞典』第4巻(吉川弘文館, 1984)
『平政隆』, 朝日新聞社『朝日日本歴史人物事典』(朝日新聞社, 1994)



静岡文化芸術大学 学長
佐々木 雅幸
Sasaki Masayuki

紹介した図書

アントネッラ・アンニョリ[著]、萱野有美訳
『知の広場：図書館と自由』
010.1/A 19

ウンベルト・エーコ著、河島英昭訳
『薔薇の名前』[上][下]
973/E 19/1
973/E 19/2

小篠隆生、小松尚共著
『地区の家』と『屋根のある広場』：
イタリア発・公共建築のつくりかた』
526.3/0 96

仙田満、環境デザイン研究所編
『めぐる、めくる、めくるめく：
石川県立図書館の新世界』
016.2143/Se 58

佐々木雅幸著
『創造都市への挑戦：
産業と文化の息づく街へ』
318.7/Sa 75

都市の記憶と「知的な居場所」、そしてAI時代の図書館

イタリア、ボローニャの中心広場、ピアッツァ・マッジョーレに面するサラボルサ図書館は、都市の歴史と現代の知が交差する象徴的な空間である。この建物はかつて株式取引所として機能していた場所であり、その後、記号論哲学の創始者ウンベルト・エーコが提唱した「市民のための知の広場」という理念にも触発され、マルチメディア図書館として再生された。市民がウェブにアクセスし、情報を共有する「開かれた知の拠点」を目指した試みである。（アントネッラ・アンニョリ『知の広場』）

図書館の床下に広がる古代ローマの遺構、そして深々としたソファに身をかがめながら読書に没入する人々の姿。そこには、知識を「消費する」のではなく、時間の厚みの中で「熟成させる」文化が息づいている。サラボルサ図書館は、都市の記憶と静かな思索を支える公共圏なのである。その中心空間は「Piazza Coperta（屋根のある広場）」と呼ばれ、2016年にはエーコの功績を称えて「ウンベルト・エーコ広場」と命名された。彼の代表作『薔薇の名前』に描かれた迷宮のような図書館像とも響き合いながら、ここでは物理的な書物と人間の知的営為が重視されている。（小篠隆生『「地区の家」と「屋根のある広場」』）

一方、金沢市の石川県立図書館は、「知的な居場所」というコンセプトのもと、これまでにない図書館像を提示している。この設計を手がけた建築家仙田満は、自著『めぐる、めくる、めくるめく石川県立図書館の新世界』の中で、その空間を「めくるめく空間」と表現している。

円環状に広がる大空間の中で、人々の視線は上下左右に開かれ、書架や人の動き、光の変化が絶えず連続していく。その体験は、一冊の本のページをめくるというよりも、知の世界そのものを回遊し続ける感覚に近い。多様な椅子や居場所の選択肢もまた、この「めくるめく」体験を支えている。利用者は自らの身体感覚に応じて場を選び、知との関係を編み直していく。

さらに、本の表紙が前面に現れる劇場的な書架構成は、「本の顔」との出会いを演出する装置である。それは、背表紙中心の従来の図書館とは異なり、視覚的な刺激を通じて偶発的な発見を促す仕組みであり、まさに知の劇場と呼ぶにふさわしい。石川県立図書館は、「めくるめく空間」によって、知との出会いを動的かつ身体的な体験へと転換しているのである。

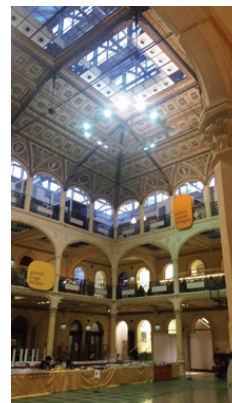
このように、ボローニャが「記憶の深さ」を、金沢が「知識の広がり」を体現するとすれば、両者は図書館の未来像を異なる方向から照らしている。しかし、その根底には共通の理念がある。図書館とは、人間の創造性を育む公共的基盤であるという認識である。

ここで重要なのは、浜松市を含め、これら三都市がいずれもユネスコ創造都市ネットワークに属している点である。創造都市とは、文化と創造性を都市の持続的発展の基盤とする都市である。（佐々木雅幸『創造都市への挑戦』）その中核に位置づけられるべき施設こそ、図書館であろう。

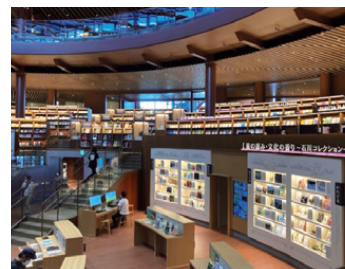
では、AI時代において図書館はどのような役割を担うのか。

これからの図書館は、単に知識を蓄積・提供する場にとどまらず、「ローカルLLM（地域固有大規模言語モデル）」の拠点となることが期待される。すなわち、地域の歴史資料、文化資源、市民の知的活動の蓄積をデジタル化し、それらを基盤として地域に根ざした知の生成を可能にする場である。グローバルなAIが膨大な一般知を扱う一方で、地域固有の記憶や文脈はしばしば見落とされがちである。図書館は、その「ローカルな知」を収集・編成し、AIと結びつけることで、新たな創造性の源泉となりうる。いわば、都市の記憶を未来へと翻訳する知的インフラである。この視点に立てば、サラボルサ図書館における歴史の可視化も、石川県立図書館における知の劇場化も、いずれもローカルな知の厚みと広がりを支える実践として再解釈できる。そして静岡文化芸術大学の図書館もまた、こうした潮流の中に位置づけられるべきであろう。本学の図書館は、過去の知を保存するだけでなく、それをもとに新たな創造を生み出す「共創の場」であるべきである。さらに言えば、人間とAI、地域と世界が交差する「知のプラットフォーム」として機能する可能性を持っている。

「温故知新」とは、単に古きをたずねることではない。過去の知を現在の文脈において再解釈し、未来へと開くことである。図書館はまさにその媒介装置であり、AI時代においては、その役割は一層重要性を増すだろう。静かに本を読む空間と、知が劇場のように立ち現れる空間。そして、地域の知がAIによって再編成される空間。これらを統合する新たな図書館像を構想すること。それこそが、創造都市における「温故知新」の実践にほかならない。



サラボルサ図書館



石川県立図書館



国際交流センター長
国際文化学科 准教授

武田 淳
Takeda Jun

紹介した図書

井上京子著
『もし「右」や「左」がなかったら：
言語人類学への招待』
801.03/I 57

M.サーリンズ, E.サーヴィス著；山田隆治訳
『進化と文化』
389/Sa 16

鈴木継美著
『パプアニューギニアの食生活：
「塩なし文化」の変容』
018/C 64/1044

エドゥアルド・コーン著；近藤社秋、二文字屋楠共訳
『森は考える：
人間的なるものを越えた人類学』
382.615/Ko 27

安岡宏和著
『アンチ・ドムス：熱帯雨林の
マルチスピーシーズ歴史生態学』
389/Se 19/M-10

秋道智彌、岩崎望編
『絶滅危惧種を喰らう』
482/A 35

佐合隆一著
『救荒雑草：飢えを救った雑草たち』
471.9/Sa 16

奥野克巳著
『モノも石も死者も生きている
世界の民から人類学者が教わったこと』
163.3/0 56

フィールドから帰って、本を読む

学生時代、とにかくお金がなかった。学費も生活費も自分で賄わなければならず、家賃や光熱費を支払った後、六千円しか手元に残らなかった月もあった。これで一か月を過ごさなければならぬ。友人が自動販売機で缶コーヒーを買う姿が、とても裕福に見えた。

そんな生活の中で、「大学を辞めて働いた方が幸せなのではないか」と考えたこともある。しかし、それを選んでしまえば、大学へ進学した自分自身を否定するような気がした。翌日、私は残り少ない生活費を握りしめて書店へ向かい、一冊の学術書を買った。一日の食費が二百円だろうと百円だろうと、大した違いはない。それならば、「それでも大学にいる自分」を肯定するために、本を読もうと決めたのである。その時に手に取ったのが、井上京子『もし「右」や「左」がなかったら—言語人類学への招待』だった。

世界には、「右」と「左」という概念を持たない言語がある。「心」は胸ではなく喉にあると考える人々もいる。フィールドワークを通じて描かれる民族言語の世界は、それまで疑ったこともなかった私自身の「当たり前」を静かに揺さぶってくれた。そして、私自身も現地に行ってみたく強く思うようになった。

アルバイトでお金を貯め、初めて訪れたのはパプアニューギニアだった。電気もガスも水道もない狩猟民の村で暮らし始めると、驚きの連続だった。狩猟民と聞けば、「獲物が取れなければその日の食事が無い」という厳しい生活を想像していた。しかし、彼らと森へ出て、遊んでばかりでなかなか狩りを始めようとしないのである。私が驚いたこの光景を、マーシャル・サーリンズは『進化と文化』の中で、「狩猟民とは狩猟をしない人々だ」と印象的に表現している。狩猟は成功する保証がない。だからこそ、獲物が得られたときには互いに分け合う「互酬性」が発達するのだという。

もう一つ不思議だったのは塩だった。内陸のこの地域では、塩が手に入らない。そこで、「塩っぽい味がするもの」を身近なものから探すのである。具体的には、ヤシの実の内皮を焼いた灰から、塩に似た調味料を取っていた。これは何なのか、その時は分からなかったが、帰国後に鈴木継美『パプアニューギニアの食生活』を読んだ時、「塩なし文化圏」では、様々な塩の代用品が存在することが分かった。私にとって読書は、フィールドワークで見た世界を理解するための営みへと変わっていった。

パプアニューギニアの森の世界には、私たちの「あって当たり前」がない。しかしその一方で、森の植物や動物を見分け、季節の変化を読み、自然とともに暮らす知恵は驚くほど豊かである。私にとって、彼らの暮らしは「知」の宝庫だった。こうした驚きを求めて村へ通い続け、気がつけば、それが仕事になっていた。初めてフィールドワークに出ってから二十六年が経つ。この間、開発途上国は急速に変化し、かつて文化人類学者が調査してきたような地域も少なくなった。それでも私の調査地には、いまでも電気もガスも水道もない。食料の多くを自然から得て暮らす人びとと付き合い続けられることを、私は一つの幸運だと思っている。

だからだろうか、近年は人と自然の関係や「食」を考える本を読むことが増えた。なかでも、エドゥアルド・コーン『森は考える』は、人間だけでなく森そのものを思考の主体として捉えようとする刺激的な一冊だった。また、安岡宏和『アンチ・ドムス』は、「野生」と「栽培」という私たちの常識を揺さぶり、人間と自然の関係を改めて考えさせてくれる。その視点で昔のフィールドノートを読み返すと、それまで見過ごしていた風景が少しずつ浮かび上がってくる。村人が森で採っていた植物、子どもたちが遊びながら集めていた昆虫。それらは「食料」でも「資源」でもなく、人と自然が結びつきながら暮らしてきた証だったのだと気づかされる。

そう考えるようになってからは、食への関心も深まった。秋道智彌『絶滅危惧種を喰らう』は、「守る」と「利用する」という単純な対立では語れない自然との関係を教えてくれる。また、佐合隆一『救荒雑草』は、飢饉の時代に利用されてきた野草や木の実など、「忘れられた食べもの」の知恵を掘り起こした一冊である。私が近年取り組んでいる「人は何を食べることを忘れたのか」という問いとも重なる内容だった。

そして最近読んで印象に残ったのが、奥野克巳『モノも石も死者も生きている世界の民から人類学者が教わったこと』である。人間だけを世界の中心に置かず、動植物やモノとの関係から社会を捉え直そうとする視点は、二十六年間通い続けてきたパプアニューギニアの森を、もう一度、新しい目で見つめ直すきっかけを与えてくれた。

学生から「おすすめの本はありますか」と尋ねられることがある。しかし、私にとって本は「答え」を与えてくれるものではない。本は、新しい世界へ連れて行ってくれるだけでなく、かつて見た世界をもう一度、新しい光で照らしてくれるものである。図書館で出会った一冊が、皆さんをまだ見ぬ世界へ連れ出し、いつの日か、自分自身の世界を読み替えてくれることを願っている。

知っていますか？こんなサービス

学生購入希望（リクエスト）

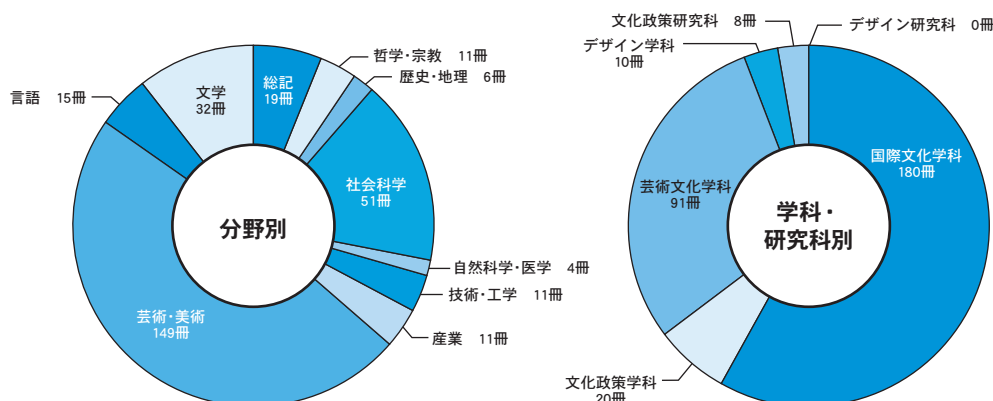
図書館・情報センターを利用して、「読みたい本があるけど所蔵されていない」「こんな本を置いてほしい」「卒業制作に必要な本があるけど、個人では高価で買えない」などといったことはありませんか？

そのような時は、学生購入希望（リクエスト）を活用してください。学生購入希望を申込するときは、カウンター前の掲示板にある「購入希望図書申込書(3枚綴)」に必要事項(図書の情報など)を記入して、カウンターに提出してください。

★学生購入希望（リクエスト）について

- ・学生購入希望は、本学の学生を対象とするサービスです。
 - ・2025年度は6～7ページ掲載の309冊を受け入れました。
 - ・絶版や品切れとなっている図書、洋書、CDやDVDなどの視聴覚資料も申込可能ですが、入手できないこともあります。
 - ・雑誌・漫画類および1点が5万円以上の高額図書を除きます。
 - ・学習や調査研究に無関係の個人的な利用目的は対象外です。
 - ・一度に多数の購入希望を申し込むのはご遠慮ください。
- その他、学生購入希望で不明なことがありましたら、カウンターでご相談ください。

■2025年度の購入実績



学生購入希望（リクエスト）で購入した図書のご紹介

大逆転！： コンチネンタル航空—奇跡の復活

ゴードン・ベスーン、スコット・ヒューラー著；
仁平和夫訳
日経BP社、1998.10
[687.067/B 39]



本書は、経営の奇跡とも呼ばれるコンチネンタル航空の再建劇を描いた一冊です。著者はその核をなすゴードン・ベスーン自身です。

舞台は90年代のアメリカ。コンチネンタル航空は、複数の中堅航空会社が合併してできた寄せ集めのような航空会社であり、94年までの10年間で一度も黒字を出せず、さらにはその間に二度の経営破綻を経験した会社でした。賃金は業界平均より3割以上低く、従業員は経営陣への不信感を強め、経営陣は従業員を全く信頼していませんでした。その結果、手荷物の紛失や定時到着率の低さは業界最下位となり、乗客からも敬遠される状態が続いていました。そこで登場するのが、ゴードン・ベスーンです。彼は「前進プラン」と名付けた再建計画を掲げ、「市場」「財務」「商品」「従業員」の四つの軸から同時に立て直しを図りました。

私が一番印象に残ったのは、彼が「従業員プラン」に最も力を注いだという点です。本社のあるヒューストンへ従業員を招く「オープン・ハウス」を開催したほか、年に二回は全部署で経営陣と従業員が直接対話できる集会を設けたりしました。コストや数字の改善と同時に、壊れた「信頼」を取り戻すことを行ったのです。結果が実を結ぶのには長くの時間はかかりませんでした。1996年には顧客満足度の高さが評価されJ・D・パワー賞を受賞し、翌年も受賞するという史上初の快挙を成し遂げました。

この本を読んで最も考えさせられたのは、組織の再生において「信頼」がいかに重要な点かという点です。どれほど優れた戦略を立て、どれほどすごいコンピューターを使用して予測を立てても、それを実行するのは人間です。ベスーンは数字の改善と同時に人と人との関係をも修復しました。その姿勢が従業員の行動を変え、顧客の評価を変え、最終的には会社そのものを変えていきました。コンチネンタル航空はその後ユナイテッド航空と対等合併を果たしましたが、現在もそのロゴにはコンチネンタル航空の象徴である地球儀のマークが受け継がれています。

【文化政策学部 国際文化学科 2年 馬淵 斎】

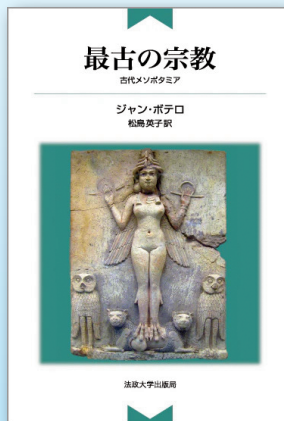
最古の宗教：古代メソポタミア

(新装版)

ジャン・ボテロ著；松島英子訳

法政大学出版局，2013.8

[162.273/B 66]



ジャン・ボテロ『最古の宗教—古代メソポタミア』は、古代メソポタミアの宗教を、神話・儀礼・神々への祈り・死生観などから幅広く読み解いた一冊です。メソポタミア文明というと、楔形文字やジグurat、『ギルガメシュ叙事詩』などが思い浮かびますが、本書はそれらを単なる古代の遺物としてではなく、当時の人々が世界をどのように理解し、神々とどのように向き合っていたのかを考える手がかりとして示してくれます。

本書の魅力は、古代メソポタミアの宗教を「原始的な信仰」として扱うのではなく、社会や生活に深く根ざした知的体系として描いている点にあります。神々は自然現象や都市、王権、日常生活と密接に結びつき、人間は神々に仕える存在として自らの生を理解していました。そのため、祈りや供犠、占い、祭儀は単なる迷信ではなく、不安定な世界の中で秩序を保とうとする営みでもあったことが分かります。

また、著者ジャン・ボテロの叙述からは、メソポタミア人の思考を現代的な価値観で単純に判断するのではなく、その時代の視点から理解しようとする姿勢が感じられます。死後の世界や神々の怒りに対する考え方には、現代とは異なる部分も多くあります。しかし本書を読むことで、それらを奇妙なものとして距離を置くのではなく、当時の人々にとっての切実な問題として捉えることができます。

私自身、古代西アジアの文学や宗教に関心があり、とくに『ギルガメシュ叙事詩』のような作品を読むうえで、本書は重要な導入になると感じました。神々と人間の距離、死への不安、祈りや儀礼の意味を知ること、文学作品の背景もより立体的に理解できます。また、古代の宗教を知るとは、現代とは異なる価値観を学ぶだけでなく、死への不安や幸福を願う気持ちなど、今も変わらない人間の姿を考えるきっかけにもなります。古代メソポタミアに初めて触れる人にとっても、宗教・神話・古代文明に関心のある人にとっても、知的好奇心を広げてくれる一冊です。

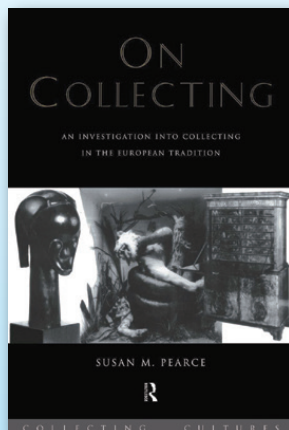
【文化政策学部 芸術文化学科 4年 藤田 俊太郎】

On collecting : an investigation into collecting in the European tradition

Susan M. Pearce

Routledge, 1999

[069.4/P 31]



何かを熱心に集めるという経験は、皆さんにとっても思い当たる節があるのではないのでしょうか。集めたものをどのように扱うかに着目すると、収集行為には様々な意味合いがあることに気づかされます。スーザン・ピアース著“On collecting : an investigation into collecting in the European tradition”は、主にヨーロッパの収集文化を対象とし、人類がものを集めてきた歴史や、収集と自己形成との関わり、コレクションの公開が社会に及ぼす影響を、歴史学や社会学、文化研究の視点から考察した一冊です。

私は現在、文化政策研究科に在籍し、日本の公立美術館における収集活動の研究を行っています。現代において、ミュージアムにコレクションが存在することは「あって当然」のものとして受け止められています。西洋では、王侯貴族のコレクションが母体となってミュージアムが誕生しますが、日本における歴史を振り返ると、コレクションは必ずしもミュージアムの中心として位置づけられてきませんでした。それは、日本の博物館の起源が博覧会に端緒をもつこと、また、最初の公立美術館である東京府美術館が当初は団体展の貸会場として開館したことから見て取れます。

本書は西洋に起源をもつミュージアムの歴史を捉え直し、コレクションとは何かを理解する手がかりとなります。「なぜ人類は集めるのか」、そして「集めたものを見せるのはなぜか」。こうした問いは、個人の趣味や執着の背景を考えるだけではありません。帝国主義の拡大とコレクション形成の関係や、国民教化を目的にコレクションが公開された背景を重ね合わせることで、収集行為の背後にある政治的な意図や倫理的な問題をも浮かび上がらせます。

何かを集めるという普遍的な行為の延長線上には、ミュージアムが存在します。何かを収集することがひと段落したときに、ぜひ本書を開いてみてください。コレクションを捉え直す視点を持てるかもしれません。

【大学院 文化政策研究科 2年 河村 清加】

受入図書一覧

請求記号	資料名	請求記号	資料名
002/Ki 24	人文学を社会に開くには。：パブリックヒューマニティーズから考え・行動する	366.28/H 36	障害者雇用と合理的配慮：日米の比較法研究
007.3/I 52	蜘蛛の巣上の無明：インターネット時代の身心知の刷新にむけて	366.28/Ko 83	障害者雇用促進法の逐条解説
007.5/Ka 86	デジタル時代のアーカイブ系諸学	366.28/N 16	詳説障害者雇用促進法・障害者総合支援法：多様性社会の就労ルールをひもとく
007.5/Su 96	共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ	366.38/Ku 82	わたし8歳、職業、家事使用人。：世界の児童労働者1億5200万人の1人
020/G 34	スィユ：テキストから書物へ（叢書記号学的実践:20）	366.89/Ko 73	アインが見た、碧い空。：あなたの知らないベトナム技能実習生の物語
020/Sh 96/27	近代製本の100年：明治・大正・昭和（書物学:27）	367.1/R 31	キレイならいいのか：ビューティ・バイアス
022.57/H 58	Refresh the book : on the hybrid nature of the book in the age of electronic publishing	367.2/Mi 82	ケアと家族愛を問う：日本・中国・デンマークの国際比較
023.1/Sh 79	定本ベストセラー昭和史	367.61/Sh 23	ヤングケアラーわたしの語り：子どもや若者が経験した家族のケア・介護
023.191/F 82	活字メディアの時代：近代福岡の印刷と出版（新修福岡市史:特別編）	367.7/C 95	Growing old : the process of disengagement
023/Th 6	Merchants of culture : the publishing business in the twenty-first century 2nd ed	368.3/A 41	死に魅入られた人びと：ソ連崩壊と自殺者の記録
069.4/P 31	On collecting : an investigation into collecting in the European tradition	368.64/Ko 61	当事者は嘘をつく
069/A 38	ミュージアムの未来をつくる博物館情報・メディア論	369.02124/A 53	近世社会福祉史料：秋田感恩講文書
069/A 53	明治期博物館学基本文献集成	369.17/Sh 12/11	障害者福祉（新・Minerva社会福祉士養成テキストブック:11）
070.18/Ts 36	近代日本の新聞広告と経営：朝日新聞を中心に（本編、資料篇）	369.27/Ki 24	障害法 第2版
070.67/F 79	光芒!フクニチ新聞	369/Y 36	ケアする私の「しんどい」は、どこからくるのか：見えないケア責任を語る言葉を紡ぐために
092.154/Y 65	静岡中心街誌（本誌、別冊）	372.3/Ku 48	ヨーロッパ教育歴史と展望：EUによる新しい試み"ヨーロッパ教育"を歴史と授業分析から探究
093.861/N 37	静岡浅間神社の稚児舞と廿日会祭：駿府城下町の魂、ここにあり!	375.313/N 39	パフォーマンス課題を位置つけた中学校公民の授業プラン&ワークシート
104/Ta 87	スマホ時代の哲学：失われた孤独をめぐる冒険	375.323/N 39	パフォーマンス課題を位置つけた中学校歴史の授業プラン&ワークシート
121.52/Ta 84	国学の敗戦	375.333/N 39	パフォーマンス課題を位置つけた中学校地理の授業プラン&ワークシート
121/Sa 16/6	超越・自然（相良亨著作集:6）	375.9/Te 25/R-46	社会科中学生の歴史：日本の歩みと世界の動き
156/Mi 53	葉隠入門 46刷改版（新潮文庫）	376.322/C 52	中国の教育格差と社会階層：中等教育の実像
162.273/B 66	最古の宗教：古代メソポタミア：新装版	382.11/Ke 26	アイヌ社会と外来宗教：降りてきた神々の様相
168.9/Y 86	中国江南マニ教絵画研究	383.1/F 32	循環するファッション：新しいデザインへの挑戦
169.1/Ka 51	如来教の成立・展開と史的経緯：江戸後期の社会と宗教	383.81/A 38	パクチャーとアジア飯
192/I 33	聖人崇敬の歴史	383.81/H 55	料理書と近代日本の食文化
193.211/C 83	ノアの大洪水：西洋思想の中の創世記の物語	388/A 64	お化けの愛し方：なぜ人は怪談が好きなのか
198.22/A 95	聖人事典 新版	389.27/H 89	砂漠の文化：アラブ遊牧民の世界（教育社歴史新書:東洋史 B2）
198.22/W 75	図説聖人事典 普及版	389/Ka 93	景観人類学：身体・政治・マテリアリティ
210.58/Mi 71	歴史のなかの新選組	389/Ku 11	内在的多様性批判：ポストモダン人類学から存在論的転回へ
210.58/Y 92	明治維新に不都合な「新選組」の真実	468.2/Ta 28	土中環境：忘れられた共生のまなざし、蘇る古の技
210.7/Ta 13	五・一五事件：橋孝三郎と愛郷塾の軌跡	487.5/H 84	The world of fish
213.7/Sa 25	幕末・明治の横浜：西洋文化事始め	493.76/Y 77	「心のない人」は、どうやって人の心を理解しているか：自閉スペクトラム症者の生活史
227.3/Sa 82	From the Mari archives : an anthology of Old Babylonian letters	493.937/My	発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン
289.1/I 33	紙ハブと呼ばれた男：沖縄言論人池宮城秀意の反骨	504/Ko 12	テクノロジーって何だろう?：「未完了相」で出会い直すための手引き
302.2/A 27/290	女性のかから歴史をみる：柳田国男「妹の力」論の射程（アジア遊学:290）	520.4/A 53/2	見えの行き来から生まれるリアリティ（原っぱと遊園地:2）
310.4/Ta 13	日本を救う農本主義：『日本愛国革新本義』『永遠なる義公』	520.87/F 97/9	大西麻貴+百田有希/o+h（PLOT：建築のプロセス：Global architecture:09）
311.21/Ta 13	橋孝三郎の農本主義と超国家主義：もう一つの近代	523.37/Ki 63	イタリア合理主義：ファシズム/アンチファシズムの思想・人・運動
316.81/Ki 64	アイヌもやもや：見えない化されている「わたしたち」とそこにふれてはいけな気がしてしまう「わたしたち」の。	583.9/E 63	菰樽ものがたり：尼崎地域の樽巻き菰製造
316.81/Si 1	アイヌ通史：「蝦夷」から先住民族へ	586.2225/Ka 72	セルフ・デベロップメント・ゴールズ：SDGs時代のしあわせコットン物語
331.85/Mi 26	大不平等：エレファントカーブが予測する未来	588.3/I 32	日本洋菓子史
332.239/H 38	マレーシアの経済発展とアジア通貨危機	589.2/I 57	僕たちはファッションの力で世界を変える：ザ・イノウエ・ブラザーズという生き方
334.4/H 11	The age of migration : international population movements in the modern world 6th ed	589.2/I 89	ファストファッションはなぜ安い?
334.41/I 75	埼玉クルド人問題：メディアが報道しない多文化共生、移民推進の真実	589.2/Mo 54	安い服には理由がある：知らずに選んでいませんか?：エンカルファッション・サステナブル消費の第一歩
335.1/N 45	根性の経営学	596.65/N 71	あいすくりいむ物語
335.13/H 34	経営者の教科書：ハーバード・ビジネス・レビューCEO論文ベスト12	611.1/F 56	ナチス・ドイツの有機農業：「自然との共生」が生んだ「民族の絶滅」：新装版
335.48/Me 25	明治屋百年史	611.31/F 67	戦時食糧政策と生理学、栄養学の実験
335.89/G 87	入門NPOのガバナンスとマネジメント：ケースで学ぶ非営利の意思決定	611.921/N 81	20世紀日本の農民と農村
336.1/H 34	ビジネスモデルの教科書：ハーバード・ビジネス・レビュービジネスモデル論文ベスト11	619.89/I 98	世界のビジネスエリートは知っている教養としてのコーヒー
336/H 44	日本的クレド経営のすすめ：賢い会社になって21世紀を勝ち・伸びる	648.1/Ma 26	前田留吉物語：日本初の牛乳搾乳業に成功した郷土の偉人（外房白子町の郷土読本）
336.3/Sc 2	組織文化とリーダーシップ	648.1/N 71	日本乳業史（第1巻、第2巻）
361.04/So 63/18	エシカル消費と社会デザイン：社会情報学の展開（ソシオ情報シリーズ:18）	648.1/Y 86	牛乳と日本人 新版
361.4/Ta 58	能力主義をケアでほぐす	674.3/A 98	Instagramあたらしい商品写真のレシピ
361.42/Y 31	「空気」の研究：新装版（文春文庫）	687.067/B 39	大逆転!：コンチネンタル航空--奇跡の復活
361.5/Ka 95	ジャパニーズ・ポップカルチャーのマーケティング戦略	689.81/Y 24	日本旅館進化論：星野リゾートと挑戦者たち
361.7/Sa 81	ぼくらは地方で幸せを見つける：ソトコト流ローカル再生論	701.1/B 67	ラディカント：グローバリゼーションの美学に向けて
361.78/Ko 79/10	広告と商業美術（コレクション・モダン都市文化:10）	701.1/F 86	調査的感性術：真実の政治における紛争とコモンズ



請求記号	資料名	請求記号	資料名
701.1/N 84	分析美学基本論文集	775.4/N 48	宝塚の座付き作家を推す! : スターを支える立役者たち
701.3/B 47	Disordered attention : how we look at art and performance today	775.6/H 54	「地域市民演劇」の現在 : 芸術と社会の新しい結びつき
701/Ka 71	アートグラフィー : 芸術家/研究者/教育者として生きる探求の技法	778.77/G 61	The cartoon music book
702.358/Kr 2	ポストメディウム時代の芸術 : マルセル・ブロータース《北海航行》について	778.77/G 61	Tunes for 'toons : music and the Hollywood cartoon
702.8/Si 6	The portrait in Britain and America : with a biographical dictionary of portrait painters 1680-1914	778.77/Sa 66	戦争と日本アニメ : 『桃太郎海の神兵』とは何だったのか
702/Mi 83	聖と俗 : 分断と架橋の美術史	779.17/Mu 93	現代ストリップ入門
706.9/A 41	Collecting the new : museums and contemporary art	780.69/I 84	一九六四年東京オリンピックは何を生んだのか
706.9/C 95	美術館は誰のものか : 美術館と市民の信託	788.5/I 76	競馬にみる日本文化
706.9/D 97	美術館という幻想 : 儀礼と権力	788.5/Ke 21/2	愛馬心の涵養、馬匹改良の捷徑は競馬にあり (競馬の社会史:2)
706.9/F 26	The Biennial reader [text], [suppl.]	788.5/Su 38	近代日本の競馬 : 大衆娯楽への道
706.9/H 38	The ephemeral museum : old master paintings and the rise of the art exhibition	802/D 97	ことばの起源 : 猿の毛づくろい、人のゴシップ : 新装版
706.9/O 51	公立美術館における学芸員の専門性 : 人から考える博物館教育	802/I 35	ひとのことばの起源と進化 (開拓社言語・文化選書:19)
706.9/O 65	The culture of curating and the curating of culture (s)	808/G 34/44	移住労働者の日本語習得は進むのか (シリーズ言語学と言語教育:44)
706.9/Sh 12	Museums and wealth : the politics of contemporary art collections	810.7/I 73	スマホは辞書になりうるか : 日本語学習者の辞書引きの困難点と指導法
706.9/Sm 5	Thinking contemporary curating 2nd ed	818/J 54/1	社会の活性化と方言 (実践方言学講座:第1巻)
706.9/To 77	Diverging curatorial practices (Beyond the box:n. 3)	818/Ta 84	「方言コスプレ」の時代 : ニセ関西弁から龍馬語まで
706.9231/A 12	阿部合成展 : 生誕110周年記念 : 修羅をこえて〜「愛」の画家	829.15/N 34	NHK出版これならわかる韓国語文法 : 入門から上級まで
706.98/Mu 43	村上隆もののけ京都	829.71/P 25	The standard babylonian epic of Gilgamesh (State archives of Assyria cuneiform texts:v. 1)
709.174/Se 93/2025	瀬戸内国際芸術祭2025公式ガイドブック	830.7/C 14/17	IELTS academic 17 with answers : authentic practice tests South Asian edition
721.1/A 33	涅槃図の図像学 : 仏陀を囲む悲哀の聖と俗千年の展開	830.7/C 14/18	IELTS academic 18 with answers : authentic practice tests
723.07/KI 6	3 x abstraction : new methods of drawing by Hilma af Klint, Emma Kunz and Agnes Martin cased	830.7/C 14/19	IELTS academic 19 with answers : authentic practice tests
723.07/KI 6	World Receivers : Georgiana Houghton, Hilma af Klint, Emma Kunz and John Whitney, James Whitney, Harry Smith	830.7/C 14/20	IELTS 20 academic : authentic practice tests : pbk
723.33/G 15	ゲーンズボロ : 1727-1788 (巨匠の世界)	830.79/Ko 85/11	公式TOEIC listening & reading問題集 11
723.33/G 15	Gainsborough in London	836.5/Sa 42/1	最新英語論文によく使う表現 基本編
723.33/P 76	Hanging the head : portraiture and social formation in eighteenth-century England	836.5/Sa 42/2	最新英語論文によく使う表現 発展編
723.33/Tu 7	Angel in the sun : Turner's vision of history	901.9/C 85/5	Comparative criticism v. 5
723.33/Tu 7	Turner : a life pbk	910.265/Y 86	令和版解体全書 : 小説家15名の人生と作品、好きの履歴書 (ダ・ヴィンチ:別冊)
723.33/Tu 7	Standing in the sun : a life of J. M. W. Turner	910.268/A 39	芥川龍之介の童話 : 神秘と自己像幻視の物語 (広島経済大学研究双書:第41冊)
723.33/W 38	The revolution in eighteenth-century art : ten British pictures, 1740-1840	910.268/A 39	芥川龍之介試解 : 呪縛の構造
723.35/Ki 39	新古典主義美術の系譜	910.268/A 39	芥川龍之介と児童文学 (日本児童文化史叢書:25)
723.35/W 49	Watteau, 1684-1721 : pbk	910.268/Mi 89	宮澤賢治に聞く
723.35/W 49	Antoine Watteau, 1684-1721 : the painter, his age and his legend	910.268/Mi 89	兄のトランク
723.359/B 78	図説ブリュッセル : 風景と民衆の画家	910.268/N 58	漱石、ジャムを舐める
723.3893/KI 6	Hilma af Klint : notes and methods	910.268/Y 62	保田與重郎近代・古典・日本
726.1/F 74	フクちゃんシリーズ (全4巻)	910.268/Y 62	保田與重郎の文学
726.1/H 36	サザエさん (全45巻)	911.16/Ta 51	はじめての近現代短歌史
726.1/H 36	長谷川町子全集 (全33巻, 別巻)	912.6/Ts 51	つかこうへい正伝 : 1968-1982
726.101/H 36	サザエさんと長谷川町子	912.6/Ts 51	つかこうへいの新世界
726.101/H 36	長谷川町子私の人生 : 漫画、家族、好きなこと	913.6/I 93	岡山女
726.101/H 36	長谷川町子 : 「サザエさん」とともに歩んだ人生 : 漫画家「日本」	913.6/N 26	流浪の月
726.101/H 56	サザエさんからいじわるばあさんへ : 女・子どもの生活史	913.6/N 26	汝、星のごとく
726.101/J 56	日本における新聞連載子ども漫画の戦前史	913.6/Ts 44	盲目的な恋と友情
726.101/Sh 49	サザエさんの正体	913.6/Ts 44	ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ。
726.101/Sh 49	サザエさん事典	913.6/Y 86/1	国宝 上
726.6/G 17	スノーグース	913.6/Y 86/2	国宝 下
726.601/B 78	ちいさなぬくもり : 66のおはなし	913.68/O 67	文学の体験 : 小川未明と宮沢賢治
727.8/N 73	Walter Nikkels : Depicted Valiz	914.6/Ts 51	娘に語る祖国
732.33/Ma 53	John Martin : visionary printmaker	929.2/F 12	ヴィースとラーミーン : ペルシアの恋の物語
732.33/Ma 53	John Martin, 1789-1854, la oscuridad visible : estampas y dibujos de la colección Campbell	929.71/A 41	Wisdom of ancient Sumer
760.8/Y 88	名鑑鑑定百科 バツハ篇+バロックの作曲家たち	929.71/B 31	The Hittite Gilgamesh : Lockwood Press
761.14/Mo 76	ことばの想い : 音楽社会心理学への誘い	929.71/Sh 14	Contemporary approaches to Mesopotamian literature : how to tell a story
762.34/W 14/2021	ワーグナーと古代ギリシア : 特集 (ワーグナー・シュンボシオン:2021)	929.9/N 89	خسرو و شیرین
762.38/Mo 66	永遠の「白鳥の湖」 : チャイコフスキーとバレエ音楽	932.5/Sh 12	Hamlet
762.38/P 94	The people's artist : Prokofiev's Soviet years	933.7/W 55	プロジェクト・ヘイル・メアリー (上巻, 下巻)
762.53/H 29	Father of the blues : an autobiography	951.6/Ma 39	骰子一擲 改訂新装縮刷版
762.53/Ke 24	都市の黒人ブルース	951/C 76	Œuvre poétique (Bibliothèque de la Pléiade:125)

(計 309 冊)

「木村文庫」のご紹介

本学は、実務型の人材養成と社会貢献を基本理念として、2000年4月13日に開学しました。初代学長には、東京大学名誉教授の木村尚三郎先生が就任しました。

開学にあたり、木村先生は「五感の感性を鋭くすることが、次の技術を生むのには不可欠。現実感と美意識とを併せ持った実務家を育成したい」と抱負を述べました。

数々の功績を遺された木村先生は、学長任期中の2006年10月17日に逝去されました。ご遺族のご厚意で、ご自宅の書斎にあった図書等の資料を、本学へ寄贈していただくこととなりました。

本学では、寄贈していただいた貴重な資料を「木村文庫」として整備し、2008年3月に開設しました。木村文庫の資料は、今も多くの学生や教職員に利用され、教育や調査研究に役立てられています。

なお、木村先生には本誌 Vol.3 の巻頭言に「『猿飛佐助』と『沙漠の決闘』」のタイトルで寄稿していただきました。この巻頭言は、静岡文化芸術大学デジタルアーカイブで全文をお読みいただけます。ぜひご覧ください。

静岡文化芸術大学 デジタルアーカイブ
図書館・情報センターだより「温故知新」vol.3
<https://www.suac.ac.jp/archives/data/00058/>



木村尚三郎 先生



木村文庫 感謝状の贈呈 (2008年3月8日)

【木村文庫の概要】

「木村文庫」は、西洋中世史を中心とした、文化・芸術に関するコレクションです。資料数は、洋書（主にフランス語）約600冊を含む、計5,155点です。内容は、木村先生のご著書をはじめ、洋の東西にわたる歴史書、『日本民俗地図』、『日本祭礼地図』といった資料類、雑誌『法制史研究』のバックナンバー、『懐かしの紙芝居』など、非常に幅の広いコレクションです。寄贈された資料から、木村先生の深い教養と豊かな発想の源泉を垣間見ることができます。

【木村尚三郎先生 ご略歴】

1930年東京都生まれ。1953年東京大学文学部西洋史学科卒業。1958年日本女子大学文学部助教授。1959年東京都立大学法学部助教授。1966年東京大学教養学部助教授。1976年東京大学教養学部教授。1990年東京大学名誉教授。2000年静岡文化芸術大学学長。

この間、関税・外国為替等審議会会長、国民生活審議会会長、しずおか男女共同参画推進会議会長、2005年日本国際博覧会（愛・地球博）総合プロデューサーなど、多数の要職を歴任。

交通文化賞（運輸省、1990年）、横浜文化賞（横浜市、1996年）、NHK放送文化賞（1997年）などを受賞。

専門はヨーロッパ中世史、比較文明論など。

著書『ヨーロッパとの対話』（日本経済新聞社、1974年 / 日本エッセイスト・クラブ賞受賞作）、『和魂和才のすすめ：ヨーロッパ知性日本の知恵』（日本経済新聞社、1979年）、『時代を見通す発想』（講談社、1987年）、『中世の街角で』（グラフィック社、1989年）、『ふりかえれば、未来：歴史を読む明日を読む』（PHP研究所、1992年）、『文化の風景』（日本経済新聞社、1997年）、『日本の美風』（潮出版社、2007年）など多数。



木村文庫 内覧会 (2008年3月8日)



木村文庫